CDEJのための情報アップデート

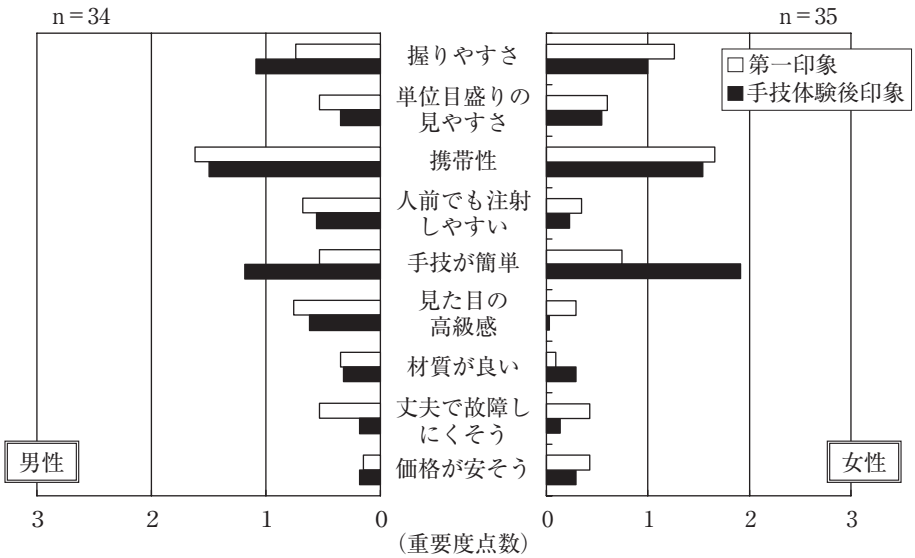
インスリン注入器に対する患者さんの印象とは

新潟薬科大学薬学部　朝倉　俊成

インスリン自己注射の成功は，医薬品とデバイス（モノ），そして患者さん（ヒト）が相互に密接に関係しあってできることと筆者は考えています．もちろん，治療に大きく関係しているのはインスリン製剤であることは言うまでもありませんが，近年の針の嵌合問題や不具合による回収・発売中止などを見ても，デバイスもインスリン治療を進める上で極めて重要なことであると言えるでしょう．これまで，デバイスの基礎試験や臨床試験（使用性試験）から，患者さんに合わせたデバイスの選択や使用上の留意点などが論じられてきました．しかし，これだけ“患者さんを基準に治療を考える時代”になっているにもかかわらず，患者さんが持っているインスリン注入器への印象についてあまり配慮されてきたとは言えないと思います．そこで，患者さんでない方にインスリン注入器をはじめて触ってもらったらどのような印象をもつのかを調査してみました．その結果の一部が発表されましたので紹介します[1)]．

方法は，全国5施設でインスリン注入器を使用した経験のない非患者のボランティア（20～49歳：69名）を対象に，4種類のインスリン注入器を初めて見たときの第一印象と使用説明を受けて実際に使用してもらった後の手技体験後の印象を比較したものです．結果は，図のように第一印象では，男女とも「携帯性」や「握りやすさ」などを重視していることがわかります．また，男性では女性に比べて「見た目の高級感」，「人前でも注射しやすい」，「材質が良い」といったインスリン自己注射そのものよりもモノから見た（外観などの）評価を重視していることもわかりました．逆に，女性では「価格が安そう」という項目を重視している人数が男性を上回っていました．しかし，手技を体験した後の印象では「携帯性」はほぼ変化なく高値であったものの，「手技が簡単」が大幅に増加し，男性では「握りやすさ」も増加していました．すなわち，この項目は実際に体験してもらわないと判りにくいということなのでしょう．この結果だけを見ても，医療者としては適正に注射を行なってもらうための項目を重視しがちですが，患者さんにとっては「生活の中でインスリン自己注射を行なうこと」という一歩手前の段階を重視しているように感じました．まさに，患者さんを単に治療者としてではなく，「ひとりの生活者」として見つめることの大切さを示していると思います．

1）武藤達也，中野玲子，虎石顕一，朝倉俊成：インスリン注入器の第一印象と手技体験後印象の比較調査，第16回医療薬学会年会講演抄録集，pp378, 2006.



重要度点数＝（重要度1位の人数×3点＋重要度2位の人数×2点＋重要度3位の人数×1点）÷各性別人数）

Fig.　男性および女性において重要視された使用感の推移
（文献1）の著者の承諾により転載）